

写真集『ベトナム反戦闘争 1965-69 砂川』

砂川を記録する会編 A4横・120p・定価2300円+税 7月15日発行



●吉川勇一（元「ベ平連」〈ベトナムに平和を！市民連合〉事務局長）

星紀市さんがまた素晴らしい砂川の写真集を刊行した。今度はベトナム反戦闘争との関連の記録だ。「砂川とベトナム反戦闘争」と言えば、すでに何度か書いているのだが、私にはどうしても言いたい思いがある。くり返しにはなるが、やはり触れておきたい。

——1998年冬、音楽家の喜納昌吉さんが主催する反戦運動の記者会見でのことだ。その場には、会員30万人、原住民への差別に強い抗議運動を続けるアメリカ「AIM——アメリカ・インディアン運動」の設立者、デニス・バンクスさんも参加していた。日本人記者から、バンクスさんに、いつからこういう運動に関心を持つようになったのかと質問があり、彼はこう答えた。

「19歳の時でした。駐留米軍の一兵士として立川基地に配属されていました。そのとき砂川町の基地拡張反対運動が起ころ、私のいたフェンスの目の前で、主婦や学生、労働者たちが機動

隊と激突しました。殴られても蹴られてもひるまない主婦や学生、そして棍棒の下で頭を割られ、血を流しながら、なおも非暴力でお経を唱え続ける僧侶たち。

それを目にして、自分はここでいったい何をやっているのか、と考えさせられました。軍隊や戦争、そして政治や差別の問題に関心を持つようになったのです。私をこの道に進ませる契機は、砂川町での日本人の非暴力の闘いでした……」

記者会見には、婦人民主クラブの山口泰子さんもいたが、私も山口さんもそれを聞いて驚いた。二人とも、まさにそのフェンスの外で殴られていた中にいたのだったから。

砂川町でのこの時の激突は1956年の秋だったから、57年も前のことだ。デモの一つの結果は、こんな形で国境、人種、そして時代を超えて知らされたのだった。

今度の『ベトナム反戦闘争 1965-69 砂川』にある一つひとつの写真は、数十年、そして何百キロを離れる砂川とベトナムとを、強く強く結んでいる記録なのだ。

〈写真集の問い合わせ先〉

砂川を記録する会・星紀市 TEL 042 (536) 2924

*オリオン書房立川ルミネ店で取り扱っています。